

グラジオラス

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露	地				●~●									
冷	蔵	抑			×					×				
首	腐	病												
ボ	ト	リ	チ	ス	病									
ア	ザ	ミ	ウ	マ	類									
ヨ	ト	ウ	ム	シ	類									
ネ	ダ	ニ	類	類										

球根腐敗病（乾腐病）

留意事項

- 1 球根貯蔵中の多湿条件で発生しやすい。
- 2 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。
- 3 ホーマイ水和剤の成分チウラムの総使用回数は、1回。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 連作を避ける。
- 3 植付け前または、貯蔵前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ **ホーマイ水和剤** M3 1
 【200倍 30分間球根浸漬 植付前又は貯蔵前／1回】または
 【球根重量の1.0% 球根粉衣 植付前又は貯蔵前／1回】
- 4 土壤消毒を行う。（XⅢ土壤消毒 参照）
 - ・ **バスアミド微粒剤**、**ガスタード微粒剤** 劇 —
 【花き類・観葉植物 20~30kg／10a は種または植付前／1回】

首腐病

留意事項

- 1 病原菌は土壤害虫や作業等による傷口から侵入することが多い。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 土壤の過湿を避ける。
- 3 多発ほ場での栽培を避ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 4 被害株はまわりの土とともに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 土壌消毒を行う。(XⅢ土壌消毒 参照)
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐
 - 【花き類・観葉植物 20～30kg/10a は種または植付前/1回】

ボトリチス病

留意事項

- 1 球根貯蔵中の高温多湿条件で発生しやすい。
- 2 自家栽培球を使用する場合は、球根堀上げ後の乾燥を十分に行う。

防除方法

- 1 健全な球根を使用する。
- 2 わらや白マルチ等でマルチングを行い、地温上昇を防ぐ。
- 3 施肥基準を守り窒素過多にならないようにする。
- 4 排水を良好にする。
- 5 発病株は早期に掘り取り処分する。
- 6 初発時に重点を置いて下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ポリオキシシAL水溶剤](#) ☐ 19 【2,500倍 発病初期/8回】

アザミウマ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場内外の雑草を除去する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) ☐ 5
【花き類・観葉植物(除りんどう) 2,500～5,000倍 発生初期/2回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) ☐ 6 【花き類・観葉植物 2,000倍 発生初期/5回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 ☐ 4A
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう) 2,000倍 発生初期/5回】
 - ・ [スカウトフロアブル](#) 劇 ☐ 3A 【2,000倍 -/5回】

ヨトウムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

- 1 施設栽培では開口部に寒冷しゃ等を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
 - ・ [アファーム乳剤](#) 6 【花き類・観葉植物 1,000倍 発生初期／5回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) UN
 - 【花き類・観葉植物 ハスモンヨトウ 1,000倍 発生初期／4回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 13
 - 【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2,000倍 発生初期／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) 28
 - 【花き類・観葉植物(除きく、りんどう) ハスモンヨトウ 2,000倍 発生初期／4回】

ネダニ類

留意事項

- 1 ネダニ類の寄生が疑われる球根（萎縮、腐敗等）は、植付けしない。また、植付け後に気づいた場合（不発芽、生育遅延等）は掘り取って処分する。
- 2 前年に多発したほ場、前作がねぎ、たまねぎ、チューリップなどのほ場では植付けを避ける。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 pHが5～6の酸性土壌では発生しやすいため、土壌pHを矯正する。
- 3 健全な球根を使用する。
- 4 収穫残渣は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 植付前に下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネマキック粒剤](#) 1B
 - 【花き類・観葉植物(除きく) 20kg／10a 全面土壌混和 植付前または定植前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。